

職人への教育の徹底と QuikDeckLightの導入で 絶対的な安全性を武器にして ビジネスの発展を目指す



橋梁を中心に耐震・補修・補強工事を行う
KAMIYA株式会社と
QuikDeckLightの施工を担う
セフティファースト株式会社。
両社を率いる神谷隆司社長に
お話を伺いました。

ホルダー会社
セフティファースト株式会社

代表取締役
神谷 隆司様
かみや たかし

QD Vol.31 Interview Holder



【会社概要】
会社名：セフティファースト株式会社
創業：1993年
代表者：代表取締役 神谷 隆司
所在地：静岡県袋井市湊923
TEL：0538-24-8170 FAX：0538-24-8161
ホームページ：https://kamiya-e.co.jp/

■橋梁工事のエキスパートが足場事業にも進出

静岡県袋井市を中心に東海地方で事業を展開するKAMIYA株式会社。1993年に有限会社神谷工業として創業した当初は、はつり工事を中心に手がけていたそうですが、その後社会の変化に対応して仕事の幅を広げ、今は橋梁やトンネルなどの耐震・補修・補強工事のエキスパートとして地域に貢献しています。

会社を率いる神谷隆司社長が何よりも重視しているのは安全な施工です。「焦らず 冷静に 基本」という社訓を掲げ、社員教育を通じて浸透させています。

耐震などの工事で橋の下へもぐるとなると、作業の前に足場を組み立てなければなりません。そこで神谷社長は「自分たちで足場もできるようになれば、人員配置やコストの面で効率化できると考えました」とのことです。足場事業にも携わることに。そして2021年、長く足場の施工を発注してきた協力会社とともに、新しくセフティファースト株式会社を設立。「社名を考えたとき、まず浮かんだ名前でした」と語る神谷社長の思いがストレートに表れた社名となりました。



白砂橋

■QuikDeckLightは理想的な足場

足場事業に参入するにあたって神谷社長が気がかりだったのは、吊足場は転落事故が多いということでした。そこで安全性の高い足場を探し、出合ったのがQuikDeckLightでした。「日綜産業さんから紹介を受けて、これはいずれ一般基準になると確信しました。それで、このあたりでは誰よりも早く導入したいと思ったんです」と神谷社長は経緯を語ります。

そして、まずKAMIYAで受注した工事でQuikDeckLightを使用。「吊りチェーンの間隔が広く、計画的に資材を入れられるので、作業効率が非常に良くなりました」と、足場で作業を行うスタッフにも好評だったそうです。

QuikDeckLightのメリットはそれだけでなく、「グループ内で足場を組み始めてから撤去するまで完結させられるので、人員配置も計画的にできます。また、工期が短くなれば交通規制が必要な期間も短くなります」と神谷社長。加えて、安全な施工にこだわる姿勢を発信することで、会社のイメージがアップし、今後の展開にも有利に動くというのが神谷社長のお考えで、「QuikDeckLightはまさに理想的な足場だと思います」とのコメントをいただきました。

■徹底した教育で安全を追求

KAMIYAでは月に2~3回、社員だけでなく現場に入る協力会社も集めて会議を行っています。内容は業界における事故事例の検証や、予定されている現場作業についての精査など。こうした情報を全員で



石上橋

共有し、安全意識を高めているのです。

そのきっかけは今から10年以上前、ある現場において、台風で中止命令が出ていたにもかかわらず、協力会社の若手職人が独断で作業を進めて転落事故を起こしてしまったことだそうです。幸い大きなけがはなかったものの、「安全対策を徹底的にやらなければならないと実感しました」とのことです。神谷社長にとっては今も忘れられない苦い経験となっています。

この会議には協力会社の職人にも来てもらうそうで、そこには「現場で施工に携わる人を教育していかないと事故は減らない」という信念が反映されています。「自分の身を守るのは自分です。予定を変更しなければならない場合も、独断でやると自分の責任になってしまいます。上司や元請に連絡するなどして、自分を守っていただきたいですね」と神谷社長。

そのほか、KAMIYAでは安全大会を年1回開催していて、100人くらいの方が集まるそうです。「費用はかかるけれども、安全に替えられるものはないですから」と神谷社長は言葉に力を込めます。

2022年8月にはKAMIYAが新社屋に移転。手狭になっていた会議室が大幅に広くなり、大人数の会議も余裕をもって実施できるようになりました。一方、それまで使っていた社屋にはセフティファーストなどグループ会社や協力会社が集まり、連携の強化が図られました。

安全にこだわり、一丸となって発展を目指すKAMIYAとセフティファースト。「近いうちに公共工事もQuikDeckLightが一般基準になると信じています」と語る神谷社長を先頭に、安全・安心な未来を築くべく、これからも走り続けます。



QuikDeckLightを収納する自動開閉式のコンテナ